

第5回博多港カーボンニュートラルポート（GNP）形成推進協議会

議事概要

1. 日 時

令和5年8月17日（木）15時00分から16時00分まで

2. 場 所

博多港センタービル2階会議室

3. 出席者

岩谷産業株式会社、ENEOS株式会社、西部ガス株式会社、株式会社商船三井、株式会社新出光、豊田通商株式会社、日本郵船株式会社、博多港運協会、一般社団法人博多港振興協会、博多港ふ頭株式会社、福岡県倉庫協会、公益社団法人福岡県トラック協会、福岡地区旅客船協会、九州運輸局、九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所、福岡市環境局、福岡市港湾空港局（事務局）

4. 議事概要

（1）民間事業者における脱炭素化の取組みについて

株式会社新出光より、自社の脱炭素化の取組みについて説明。

この他、西部ガス株式会社及び公益社団法人福岡県トラック協会より、脱炭素化の取組みについて紹介があった。

（2）博多港カーボンニュートラルポート形成計画・博多港港湾脱炭素化推進計画（最終案）について

事務局より博多港カーボンニュートラルポート形成計画・博多港港湾脱炭素化推進計画（最終案）について説明を行い、構成員より主に以下の意見が示された。

<構成員>

- ・新たな荷役機械を導入するのは重要だと思うが、次世代燃料の供給インフラがしっかり整備されていくのかが港運事業者としては気になる。

<構成員>

- ・次世代燃料の供給インフラ構築については、先の需要が見通せないこともあり、タイミングを見計らって検討していこうとしている。

<構成員>

- ・電気料金の高騰が今後も続くと見込まれるため、施設の建て替え等に合わせて再生可能エネルギーへの転換（太陽光発電の導入等）が進むのではないかと考えている。

<構成員>

- ・船の更新にかかる補助や岸壁使用料の減免など、環境配慮型船舶の導入に対する経済的な支援をお願いしたい。
- ・陸上電力供給設備の整備を充実してもらえれば、カーボンニュートラルにつながるのではないかと考えている。

<構成員>

- ・環境配慮型船舶の普及には、燃料供給体制の確保が重要。
- ・陸上電力供給設備について、大型のコンテナ船や客船には受電設備があるが、小型船には無く、船側の設備投資に費用が掛かることから、環境配慮型船舶に対する補助があればありがたい。

<構成員>

- ・LNG 船の導入を行っているが、燃料供給はトラック to シップで行っており、効率は決して良くない。船舶の更新と燃料供給インフラを一緒に検討していかないと、環境配慮型船舶の普及は進んでいかないと感じている。

以上